

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 黒畑 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

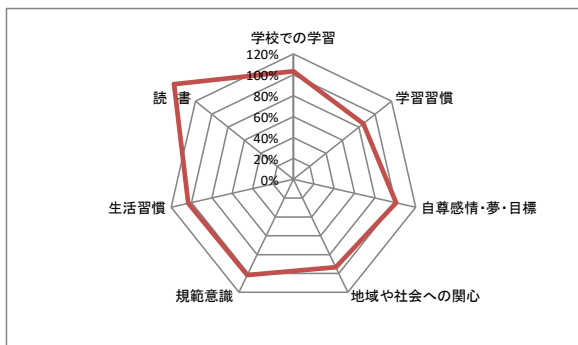
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答率をやや下回っている。「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題に、課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	自分の主張が伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題の正答率が高く、「書くこと」の方が定着している。	
	努力が必要な問題	目的に応じ文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題に課題がみられた。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に正答率をやや下回っている。無回答率がほとんどの設問で0%となっており、自分の考えを回答しようとする意識が高いことがうかがえる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができていた。	
	努力が必要な問題	棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題に課題が見られた。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○ 読書の時間が全国平均率をかなり上回っている。日頃から休み時間などにも読書を進んで取り組んでいる姿も見られており、数値に反映されている。
○ 学校での学習に対しての意欲や内容に対しては全国平均率をやや上回っているが、家庭での学習習慣においては、下回っている。宿題の量や自主学習の内容を工夫したりして、家庭学習の定着を図る必要がある。
○ 自尊感情・夢・目標に関する質問事項の中で特に「自分には、よいところがあると思いますか」において、全国平均率をかなり上回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○ 朝自習(黒畑タイム)を活用し、学習の復習や苦手な所の反復練習に取り組む。
○ 「学びの質を高める授業づくり」5つのポイントを基に、教師の授業力向上を図ることで、子どもの学びの充実へと繋げていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 今年度から月1回の学年通信に黒畑スタンダードの項目を月ごとに選んで載せるようにし、家庭との連携を図っている。
○ 黒崎中学校区4校統ルールを学期ごとに児童にも周知徹底し、中学校への移行をスムーズに促す。
○ ネットトラブル等防止用啓発資料をその都度配布したり、保護者会で啓発する時間を設定したり、年間を通して継続して